2011 アジアー北米間コンテナトレード ⑧

タイの洪水が北米航路荷動きに与えた影響について

日本海事センター研究員
松田 琢磨
川﨑 智也

はじめに

今年7月末に、台風8号（ノックテン）による洪水から始まったタイの大洪水は、大規模な被害をもたらしており、77都県のうちバンコクを含む44都県で洪水が発生し、死者・行方不明者は、合わせて671人に上っている（12月7日現在）。

タイは東南アジア諸国連合（アセアン）の中心的存在であり、道路、港湾、空港などの交通インフラ整備が比較的進んでいることから、日系を中心とした外資系自動車、コンピューター関連工場の集積が進んでいる。このこともあって大洪水は、これら外資系企業の進出した工業団地にも大きな被害を与え、とくに自動車、コンピューターで世界的なサプライチェーンの混乱を引き起こしている。

今回のリポートでは、タイの大洪水とその被害状況、タイで近年、急速に製造業のうちでシェアを高めているIT機器と自動車産業の状況、タイ発着の北米航路荷動きの状況について概説したうえで、北米航路荷動きへの影響について述べていくこととしたい。

工業団地の被害状況

タイには39の工業団地があり、工場運営のために必要なインフラやショッピングセンターなどを備えている。これらの工業団地のうち、七つ（サハ・ラタナナコン、ロジャナ、ハイテク、バンパイン、ファクトリーランド、ナワナコン、バンカディ）が洪水の被害を受けたほか、一部浸水が見られたり、警戒が必要であるとされた工業団地も六つあった。洪水が発生した工業団地には804社が工場を構えており、そのうち日系企業が449社と半数以上を占めている。なかでも、サハ・ラタナナコン工業団地では83・3%、ロジャナ、ハイテクの両工業団地でも70%弱を日系企業が占めている。この中でロジャナ工業団地では日通と近鉄エクスプレスの倉庫、ハイテク工業団地では日通の5倉庫、ナワナコン工業団地では郵船ロジスティクスの物流拠点が浸水した。

IT産業と自動車産業

これらの工業団地にはハードディスクドライブ（HDD）メーカーと自動車部品メーカーが多く集まっている。

2000年8月にタイは投資奨励策でHDD本体と部品の製造を特別重要対象業種に指定し、8年間の法人所得税免除と機械輸入税の免除を認めている。さらに、HDD製造を含む電子産業に対しては12年末までに申請を行うことで、バンコク以外の地域で法人税免除期間後、5年間の5割減税や控除措置などの特典を設けたこともあって、外資系メーカーの進出が進んだ。現在では世界上位5メーカーのうちウェスタン・デジタル、シーゲート、日立グローバルストレージテクノロジー、東芝ストレージデバイスの4社がタイに進出しており、09年における同産業による付加価値はGDP（国内総生産）の4・9%を占めており、このシェアは年々高まる傾向にある。

また、世界のHDD輸出の約4割をタイが占め、中国に次いで世界第2位のシェアとなっている。また、タイから米国に輸出される品目をみると、金額ベースで最も多いのがHDDを含むコンピューター関連部品・周辺機器（36・5億ドル）となっており、10年においてはタイから米国への輸出額の16・1%を占めている。

また、タイは東南アジアの中で最も自動車生産と販売の多い国であり、10年には生産台数で世界12位となっている。完成車メーカーでは日本企業のほか、フォード、GMといった米国企業も進出している。また、部品メーカーも上位100社のうち日本企業が28社、それ以外の外資系が22社と合計50社がタイに進出している。09年における自動車産業の付加価値はGDPの3・8%を占め、HDDと同様、このシェアは年々高まる傾向にある。

また、タイの自動車産業は輸出比率が高く、周辺諸国へも含め10年時点では生産台数の54・5%が輸出されている。自動車部品ではタイから米国に輸出される品目のうちエンジン、タイヤ、車体を除くもの（10億6500万ドル）はタイから米国への輸出額の4・7%を占める。

コンテナ荷動きへの影響は小さい（写真はバンコク港）

タイ発着コンテナ荷動き

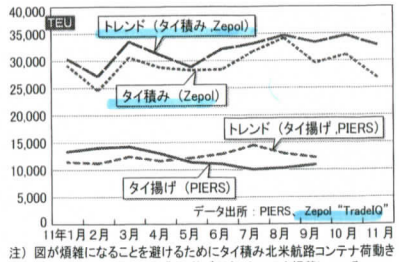
PIERSデータによると、10年におけるタイ積み米国揚げのコンテナ荷動き量は36・4万TEUで、アジア18カ国積みの2・8%を占め、8位となっている。一方、米国積みタイ揚げのコンテナ荷動き量は14・7万TEUでアジア18カ国揚げの2・3%を占め、10位となっている。

品目別に見た場合、タイ積み米国揚げで上位5位となっているのは、魚およびその調整品、穀物およびその調整品、繊維およびその製品、家具および家財道具、缶詰で、HDDを使う可能性のあると思われる品目の一般電気機器が7位、テレビ、ビデオ等の映像・音響製品が10位に入っており、自動車関連では自動車、トラック等のタイヤおよびチューブが6位に入っている（表1参照）。HDDも自動車部品も航空貨物で運ばれる割合が多いこともあって、コンテナ荷動き量で見た場合、これらの品目は貿易額の順位ほど目立っていない。

また、タイはサトウキビや米などの農作物も世界トップクラスの産出量を誇り、水産物の輸出額も世界第3位である事情を反映して、これら品目の荷動き量のシェアが高くなっている。

米国積みタイ揚げでは紙、板紙類およびその製品、ペットフードおよび動物用飼料、繊維およびその製品、採油用の種および油脂、家具および家財道具といった品目が上位に入っている（表2参照）。繊維およびその製品、果物類、家具・家財道具など消費財のほか、レジンなどの合成樹脂、セメント、石、砂、粘土などのように製造拠点向けの原

タイ積み・タイ揚げ北米航路コンテナ荷動き量



注）図が煩雑になることを避けるためにタイ積み北米航路コンテナ荷動き量のグラフはZepol "TradeIQ"に基づくデータのみを掲載している

表1　タイ積み米国揚げコンテナ貨物品目別荷動き量

（単位：TEU）

往航	2010	2011(1～10月)
魚及びその調整品	35,584	26,535
穀物及びその調整品	31,096	23,478
繊維及びその関連品	30,036	23,346
家具及び家財道具	29,293	18,927
缶詰	28,904	22,678
自動車、トラック等のタイヤ及びチューブ	27,957	31,990
一般電気機器	18,178	17,319
アルコール、飲料、タバコ等の嗜好品	9,925	10,112
家庭･台所用品	9,577	7,530
テレビ、ビデオ等の映像・音響製品	9,209	7,265
全品目合計	364,315	296,412

データ出所：PIERS

表2　米国積みタイ揚げコンテナ貨物品目別荷動き量

（単位：TEU）

復航	2010	2011(1～9月)
紙、板紙類及びその製品	18,910	12,972
ペットフード及び動物用飼料	15,667	9,633
繊維及びその製品	13,436	11,204
採油用の種及び油脂	10,367	4,189
家具及び家財道具	7,444	5,810
穀物及びその調整品	7,195	3,779
レジン等の合成樹脂	5,777	3,534
セメント、石、砂、粘土等	4,113	2,874
果物類	3,784	2,040
砂糖、甘味等の調整食料品	3,330	2,272
全品目合計	146,779	108,406

データ出所：PIERS

タイの洪水で浸水した工業団地